

第29回まちcomiリサーチ 『ご家庭の不用品の再利用について』

ドリームエリア株式会社は、無料不審者情報配信ツール『まちcomiメール』を利用している保護者の方々を対象に、『ご家庭の不用品の再利用について』のアンケートを実施いたしました。

<調査概要>

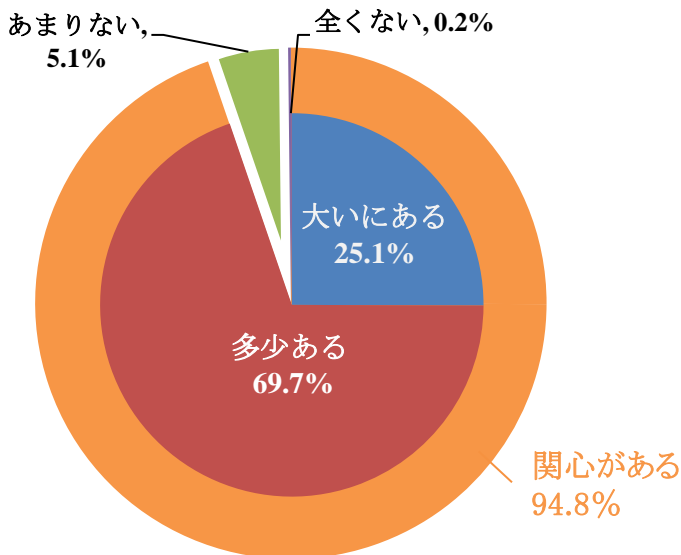
調査期間	2011年3月3日(木)～2011年3月9日(水)
調査方法	携帯サイト上のアンケートフォームにて回答
調査対象	『まちcomiメール』を利用した不審者情報を携帯で受信している保護者
調査対象数	447,057名(2011年3月3日現在)
有効回答数	21,243件(4.8%)
寄付金額	今回21,243円 寄付先：認定特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センター

<質問項目>

1	あなたは「環境問題」(地球温暖化・省エネ・省資源・リサイクルなど)について、どの程度の関心をお持ちですか。
2	「環境問題」についてどのような取り組みを行っていますか。(複数回答可)
3	「3R」活動(リデュース[減量]、リユース[再利用]、リサイクル[再資源化])をご存知ですか。
4	リユース[再利用]について、再利用したことがあるものはなんでしょう。(複数回答可)
5	再利用可能なものをどのように処分していますか。
6	ご自分(ご家族)のものが新たに再利用されることについて、ご意見をお聞かせ下さい。(自由回答)
7	お子様の学年をお答えください。※第一子の方の学年
8	あなたの性別をお答えください
9	あなたの年齢をお答え下さい
10	あなたのお住まいの地域をお答え下さい

質問1:あなたは「環境問題」(地球温暖化・省エネ・省資源・リサイクルなど)について、どの程度の関心をお持ちですか。

— 約95%の方が「関心ある」と回答。

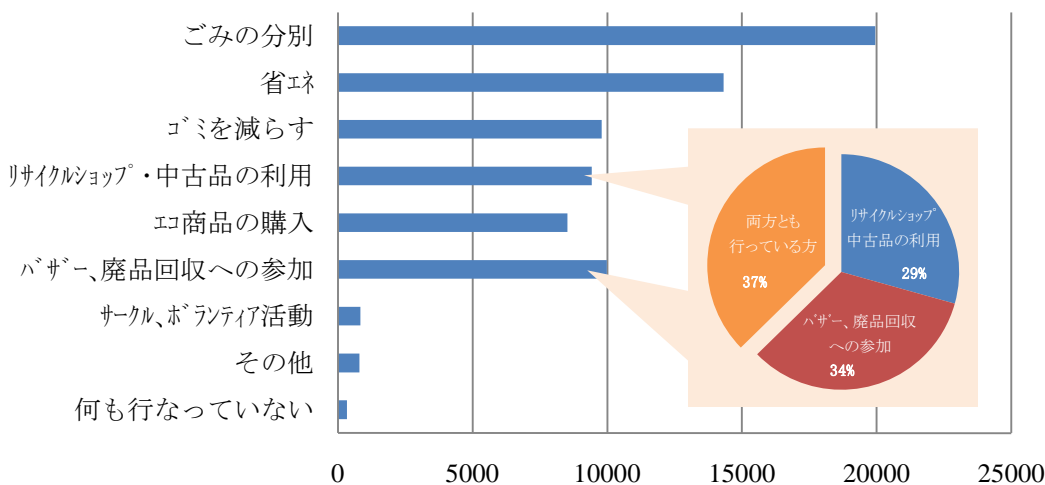


記憶に新しい「ゲリラ豪雨」のような異常気象から、自然の変化を身近にも感じられ、保護者様の自然環境に対する意識の高さがみられます。

ただし、関心の程度が「多少」の方が約70%となり、気にはなっているが、どのようにしたらいいかわからない方が多いようです。

質問2:「環境問題」についてどのような取り組みを行っていますか。(複数回答可)

— 約94%の方は、「ゴミの分別」を行なっていると回答。

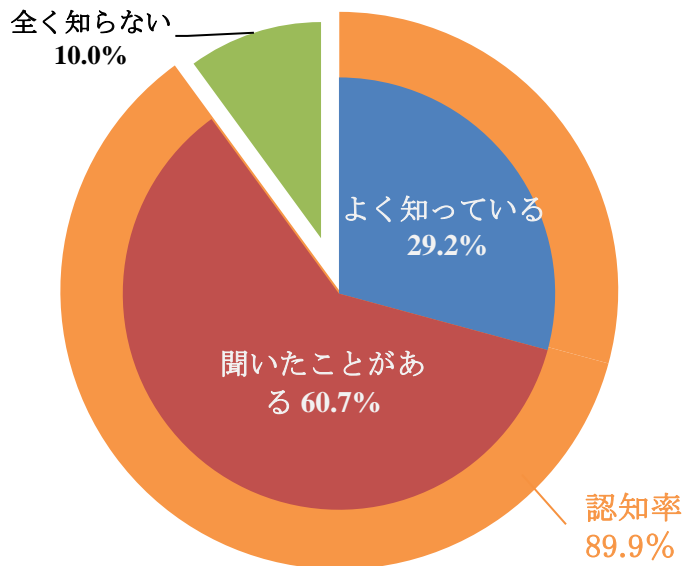


回答者の実に約94%の方が「ごみの分別」をされている結果になりました。日常的にできることとして実践されているようです。

また、「リサイクルショップ・中古品」と「バザー、廃品回収」どちらかの取り組みを行なっている方の中で、約40%の方は両方行なっていると回答。ものによって利用先を上手に使っている方も多いようです。

質問3:「3R」活動(リデュース[減量]、リユース[再利用]、リサイクル[再資源化])をご存知ですか。

— 約90%の方は認知されている。

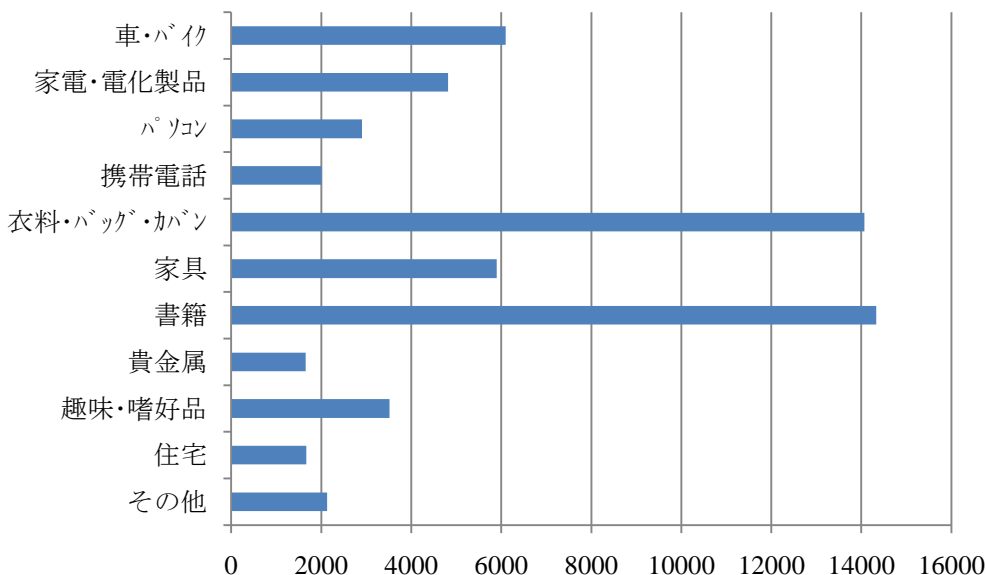


3R活動について全体の90%の方が認知している結果になりました。

また、まったく知らない方も10%いますが、質問2の「まったく環境問題に取り組んでいない」かたが1%であることを考えると、意識はせずとも3R活動を行なっていることが分かります。

質問4:リユース[再利用]について、再利用したことがあるものはなんでしょう。(複数回答可)

— 約65%の方が「衣料・バッグ・カバン」もしくは「書籍」の再利用をされたと回答。

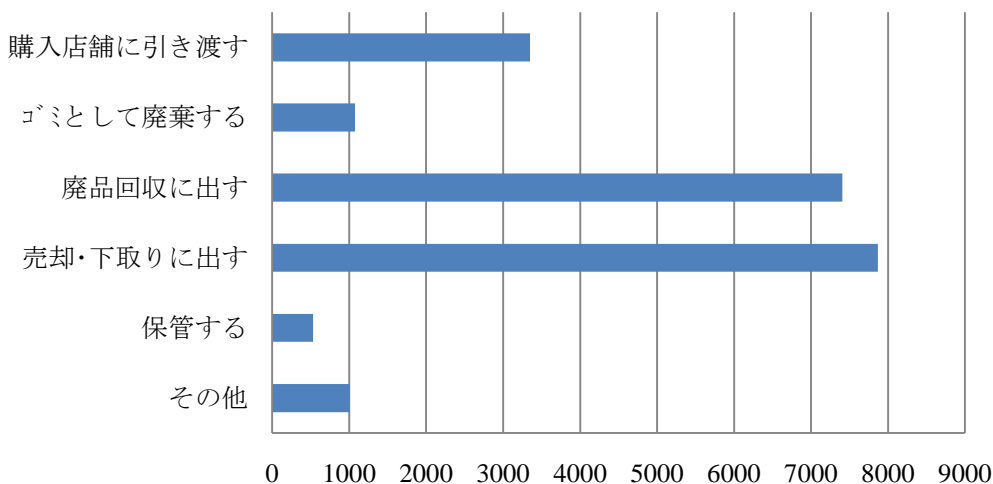


約65%の方が「衣料・バッグ・カバン」もしくは「書籍」の再利用をされたと回答されています。商品点数が多く、気軽に利用しやすい環境があるからでしょうか。

また、パソコンや携帯電話など、個人情報の取り扱いに注意するものでも、約14%の方が利用経験ありと回答され、パソコンや携帯電話の所持率の増加に合わせて、中古品の利用機会も増えてきているものと推測されます。

質問5: 再利用可能なものをどのように処分していますか。

— 約95%の方が、ゴミとして廃棄せず、何らかの方法で再利用をしている。



「廃品回収」に出すよりも「売却・下取り」に出す方が若干上回りました。資源として再活用するよりも、売却による現金化や下取りによる新商品のお得など、皆さまが生活の知恵を実践されていることが推測されます。

「ゴミとして廃棄」する方は約5%と、何らかの再利用方法をとられる方が多い結果となりました。

質問6:ご自分(ご家族)のものが新たに再利用されることについて、ご意見をお聞かせ下さい(自由回答)

多くのご意見をお寄せ戴きました。 ※以下、一部抜粋したものをご紹介いたします。 ※回答数:11,500件

<総評>

総じて、皆さまが再利用に関して多大な関心をお持ちであり、経済的なメリットより、まだ使えるものを捨てることに対しての「罪悪感」や、誰かの役に立って「うれしい」といった“思い”が強い回答が多く寄せられました。

「子ども服やおもちゃ・えほん、学校で利用する学習道具など、短く特定の期間でのみ利用するのは、再利用したい」「リサイクルショップやバザーでは、未使用品・新品しか受け付けてくれないので再利用に出したくても出せない」「どんなものが再利用できるかわからない。対象の一覧表があればわかりやすい」「どこに連絡・相談すればいいかわからない」という声も多く寄せられました。以前は、抵抗があったが、リサイクルショップやフリーマーケットを活用するようになったという、意識の変化をお持ちの方も多数見受けられ、また、ゴミの軽減、資源化、環境負荷軽減・地球のためといったエコ活動の一環としてとらえている方も多かったです。

提供するのはいいが、自身が利用することには抵抗感や恥ずかしさがあるという意見もありましたが、利用する側の啓蒙や環境を整えていく必要があるという鋭い意見もありました。ただ、クリーニングや、送料・移動費などのコストが高くつき、手間もかかるため、結局捨ててしまうという方も多く、仕組みの整備・告知をしっかり行なえば、もっと再利用率は増えるのではないのでしょうか。

また、個人の特定をされることが心配という声が多く、プライバシー保護への関心の高さもうかがえました。逆に、個人情報の流出の危険性がなければ再利用したいという声もあり、提供したあと、どのように利用されているかわからないから心配という声とともに、個人情報の取り扱いや、その後の流れの透明性が求められている結果となりました。

海外での活用事例を紹介する方もあり、政府・自治体・学校・企業などは、率先して再利用する場や仕組みの提供・整備・周知を求められている結果となりました。

そもそも不要なものを出さないように、購入時に必要かどうかをよく吟味し、多少値が張っても丈夫で長持ちするものを購入する、大事に扱う、など、普段からの姿勢が大切であり、それがひいては命の大切さにもつながるというご意見もありました。

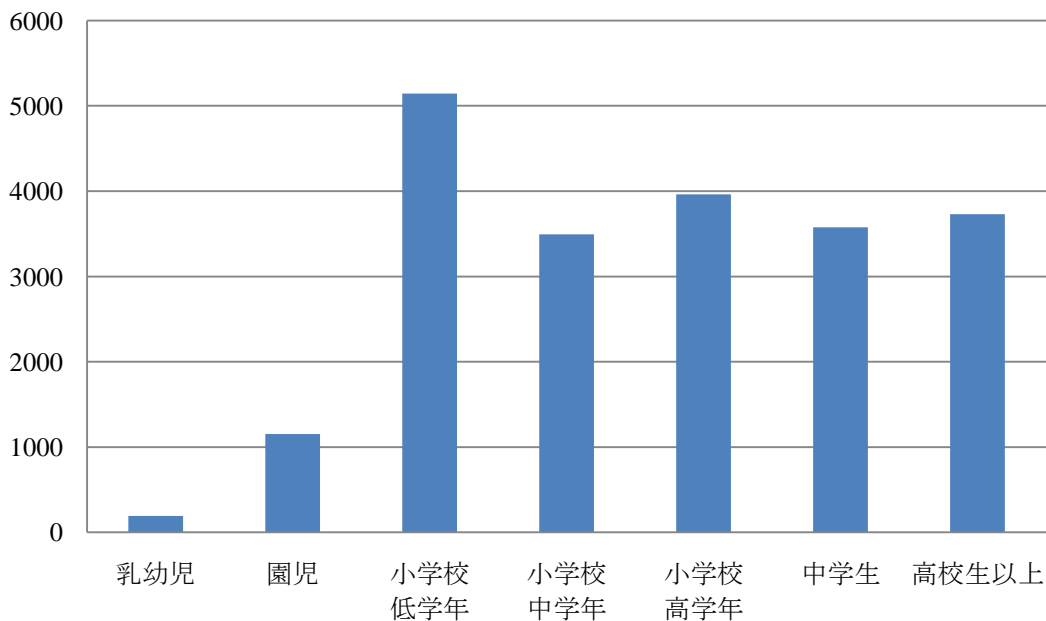
モノを大切にするという、子どもたちへの早期教育とともに、改めて、地域ぐるみで教育を行なっていくことが必要と思われる。

<頂いた回答>

- ・スウェーデンでマンションの一階に不用品を持ち込んで自由に交換出来るスペースを設けてるところがあるのを見た事があります。
- ・うちでは不要品でも他では必要とされると思うと嬉しい気持ちになる。
- ・必要性がなくなり使わなくなっただけで、まだ使える物なので、捨てる事に罪悪感を覚えます。
- ・大切に使用してもらいたいし、次に必要な人→必要な人……へと本当に使えなくなり資源へと繋がってほしいです。
- ・人にあげようと思うと自然に大事に使うようになりました。名前もマジックで書かずに刺繍にして、渡す時には取っています。
- ・いらないからあげるのではなく、使っていただくという気持ちこそが物を大切にすることでないかと思っています。
- ・個人情報等がわからないよう、リセットされたり、クリーニングされていけば、再利用されるべきだと思う。
- ・もう使わなくなったものや必要なくなったものをお互いに再利用することが当たり前の世の中になって欲しい。そうすれば物を大切にしようと思う。その様な考え方は 人の気持ちや命を大切にしようとする事にも繋がると思う。
- ・海外の洋服を思うように手に入れることのできない地域に住んでいるお子さんへ寄付させていただいています。たまに、お礼のお手紙が届くと家族で幸せを感じさせてもらっています。昔からあるお下がり制度が、今一度見直され、素敵な制度として改めて広まればな…と思っています。
- ・小学校を卒業した際にランドセルを途上国へ贈るボランティアにも参加しました。
- ・まだ使用出来る物が、次の持ち主の元で本来の役割を果たす、という事は積極的に子供達にも伝えるべきだ。資源やエネルギーについてピンと来ない子供達には、エコ活動への入り口として 最適だと思う。
- ・そのこと自体意識せず普段の生活にあって当たり前が理想
- ・所有者に価値判断を委ねるのは資源の有効活用するには不十分。ニーズの共有化が必要だと思います。
- ・国と連動してもっと関連な活動をするべき。家電もエコポイントは廃止するべきではない。エコポイントというかたちで私たちが学ぶことができるのだから…
- ・市役所や生協・店舗などで、もっと気軽に交換・回収してもらえれば環境がほしいです。
- ・詳しい表などを自治体などで配布して頂けると協力しやすいです。
- ・譲ります。譲って。の情報が身近な地域でなされると配送料もいらず当事者の行き来で成立していいのになぁと思います。
- ・どのように再利用されていくのかわからないので、その情報を積極的に発信してほしい
- ・再利用される方法(私達がどんな事をすればいいの)ももっと具体的に分かりやすい説明があればいいと思います。
- ・再利用するにも、持ち込む場所や、どんなものが可能か情報が少なくて結局棄ててしまう。
- ・相手を見つけないとリサイクルショップに持って行くと、それなりに労力がかかります。もっと簡単に、リサイクル品を売ったり買ったりあげたりもらったり出来たらいいのになぁと思っています。
- ・「捨てるには惜しいけど、人様にわざわざあげるほどではないし、リサイクル店では断られる」モノは少なくない。寄付という形を取れば納得して処分できることが多いのだが、どこに寄付できるのか、何が寄付に役に立つのか、広くしれるようになったら良い。自治体がこれに取り組むことで、ゴミの量は減量できるのではないかな。
- ・正直言って、私はリサイクルショップとかで、人が使った物は買いません。誰が使ったかわからないと怖くて使えませんから。
- ・衣料品や貴金属など、肌に触れるものに関しては再利用に抵抗感を覚える。
- ・キレイに使って、売るのは有るに難い！生活費の足しにくらいしか思わなくて地球のためとまでは思っていないんですけど！
- ・製品や商品開発に携わった方々までもがその製品を愛され続けていると感じることにもなります。より良質な品は、丈夫で長持ちなので、さらにたくさんの方に必要性を知って欲しいと思います。そのための情報が少ないように感じるのが残念です。
- ・中古品と意識せず リユースや目玉商品と考えると使いやすそうと思います。

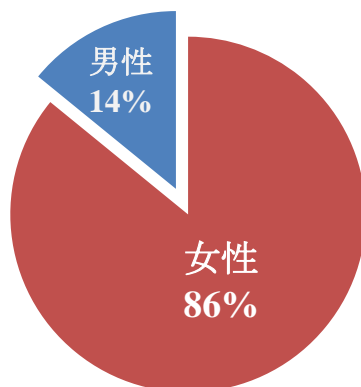
質問7:お子様の学年をお答えください。※第一子の方の学年

まちcomiメールの導入が多い小学校の保護者の方だけでなく、中学校・高校生の保護者様も多数回答いただきました。



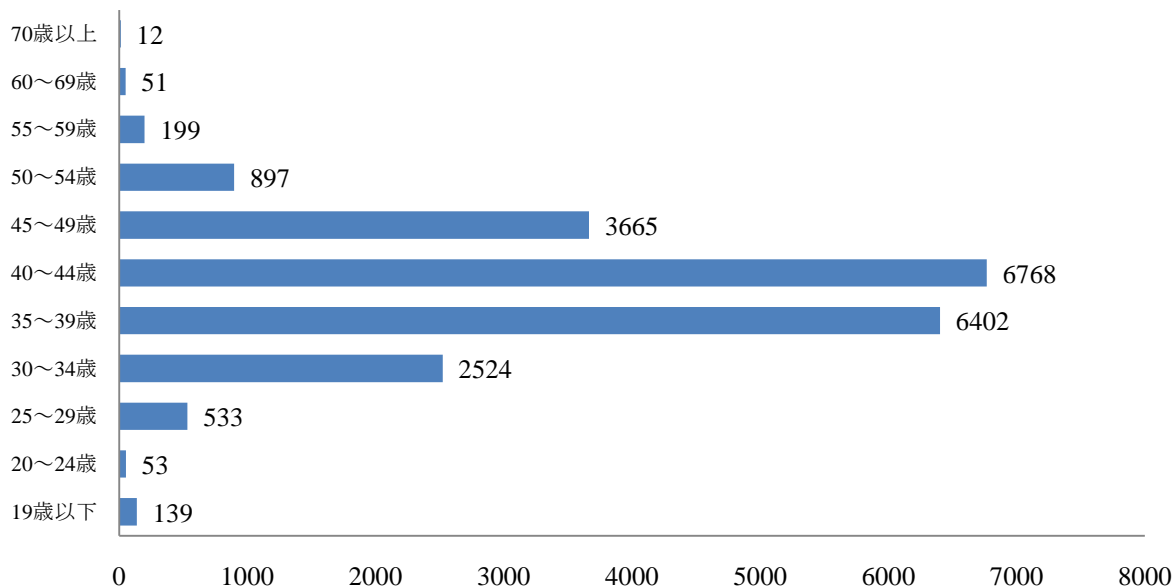
質問8:あなたの性別をお答えください。

女性の保護者様が約85%以上と圧倒的に多く、ご登録状況の男女比に応じた結果となりました。



質問9:あなたの年齢をお答え下さい

30代～40代で全体の90%超を占める結果となりました。



質問10:あなたのお住まいの地域をお答え下さい。

まちcomiメールの導入校の多い神奈川・千葉だけでなく三重や静岡など中部の地域の方も多数占める結果でした。

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	224	石川県	100	岡山県	0
青森県	85	福井県	21	広島県	151
岩手県	350	山梨県	60	山口県	278
宮城県	590	長野県	35	徳島県	155
秋田県	18	岐阜県	183	香川県	46
山形県	18	静岡県	1109	愛媛県	276
福島県	147	愛知県	927	高知県	0
茨城県	581	三重県	1030	福岡県	133
栃木県	64	滋賀県	235	佐賀県	356
群馬県	0	京都府	81	長崎県	23
埼玉県	1282	大阪府	585	熊本県	53
千葉県	3867	兵庫県	215	大分県	0
東京都	1474	奈良県	258	宮崎県	268
神奈川県	5366	和歌山県	1	鹿児島県	185
新潟県	48	鳥取県	271	沖縄県	41
富山県	7	島根県	8		

～まちcomiリサーチ:寄付金報告～

まちcomiリサーチでは【回答いただいた人数×1円】を各ボランティア団体やNPO法人へ寄付させていただいております。今回の皆様のご協力による寄付額と、現在までの合計額をご報告させていただきます。

第29回リサーチはご回答いただいた人数×1円をまちcomiから「[NPO法人チャイルドライン支援センター](#)」へ寄付します。

「東北地方太平洋沖地震」で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

今回は、子どもたちが、不安におびえることなく、明るい将来を持てるよう子どもたちの心の叫びを受け止める活動をされている、「チャイルドライン」へ微力ながら、ご支援させていただきます。

=[子どもの心に寄り添う電話「チャイルドライン」](#)=

フリーダイヤル 0120-99-7777

(月曜日～土曜日 午後4時～午後9時)

- 今回の寄付額: 21,243円
- 今回までの合計額: 406,031円
- 今回の寄付先: [認定特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センター](#)

◆今までに寄付をさせていただいた施設

- ・NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン
- ・NPO法人 チャイルドライン支援センター
- ・国際援助団体(NGO) セーブ・ザ・チルドレン